



小売事業者のリサイクル状況

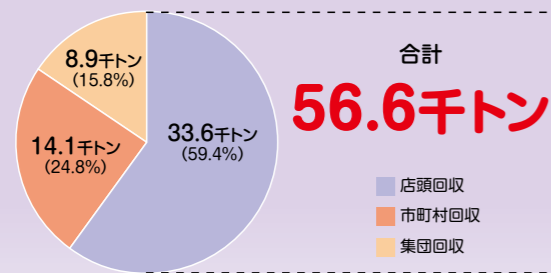
店頭回収は身近で重要な回収拠点です。

家庭からの紙パック回収量の60%を占めているのが、スーパーマーケットなどの小売事業者による店頭回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っています。

2010年度の店頭回収量は33.6千トンで前年度より0.9千トン減少しましたが、独自調査によると店頭回収の実施率は80%以上で、実施率は少しずつ伸びてきています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます!リサイクル

生活協同組合 コープこうべ

(本部:兵庫県神戸市)

取り組み事例

「コープこうべ」は、兵庫県と大阪府北摂エリアにて、組合員数約165万人、165店舗、宅配訪問45万軒の事業展開を行っている生活協同組合です。「コープこうべ環境憲章」を掲げ、環境問題を「くらしのあり方、社会システムのあり方」を問う意識変革の問題」と認識、「健康・福祉・平和」を守る運動とともに、生協運動の根源的課題と位置づけ、取り組まれています。

中でも紙パックの回収は、組合員が一部の店舗でリサイクルの活動として始めたことがきっかけとなり、1990年には店舗での回収の仕組みが構築されました。2010年度には392トンの回収実績をあげています。店頭では回収ボックスにて、宅配では担当者が訪問時に組合員から紙パックを回収し、古紙回収業者を經由して製紙会社に持ち込まれます。製紙会社では、プライベートブランド「コープス」の再生紙100%トイレトペーパーが製造され、店舗、宅配で再び組合員に販売することで、リサイクルの輪をつなげています。



店頭リサイクルボックス



トイレトペーパー売り場

福祉作業所の回収状況

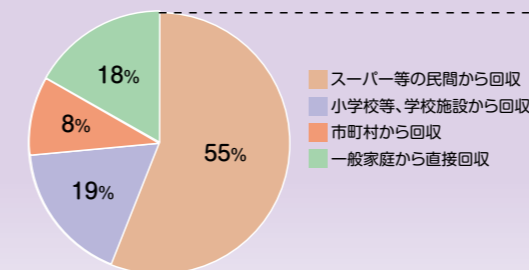
一般家庭、スーパーマーケット、小学校などさまざまなところで回収しています。

福祉作業所と市民団体の回収元はスーパーマーケット等の民間回収ボックスが半分以上を占めるほか、小学校等の学校施設、市町村の拠点、一般家庭など、福祉作業所・市民団体ごとにさまざまです。

福祉作業所や市民団体は回収だけでなく、手すきはがきやしおり等の紙パックリサイクル製品を作ったり、独自のブランド製品を販売しているところもあります。

推計回収量は前年度と同じ約1千トンでした。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます!リサイクル

社会福祉法人 和光会 笠松あんじゃ園

(福岡県飯塚市)

取り組み事例

「笠松あんじゃ園」は、知的障がいのある方が他の利用者の方々と共同生活を送りながら、社会生活を営むために必要な準備ができる「障がい者支援施設」です。障がいのある方たちが地域で、安心して豊かな生活を送ることができるようにと、筑豊地方に45年前に設立されました。以前より施設内作業として紙パックを再利用した手すきはがきと紙の製造・販売を行っていましたが、2010年より全国で展開しているコーヒショップの地元4店舗と協議、牛乳紙パック回収を始められました。事業系紙パックの回収はあまり事例がなく苦勞されましたが、現在は30店舗、月3トンにまで回収量は増えています。回収が増えたことで利用者の方々の工賃の増額にもつながっています。



回収紙パックの選別作業



回収され保管されている紙パック



市町村回収・集団回収の状況

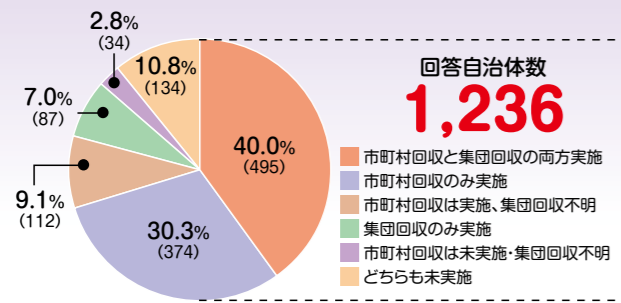
全国の約9割の市町村で紙パックの回収に取り組んでいます。

2010年度調査は東京特別区を含む全国1,750市町村のうち、震災で被害が大きかった31市町村を除いた1,719市町村を対象に実施し、1,236市町村から回答を得ました。日本全体の人口比率で見ると88.3%になります。

調査では、市町村や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

ステーション回収・拠点回収などの市町村回収と、集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収の実施率は79%、集団回収は不明を除いて47%でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施している自治体は86%です。9割近くの市町村が紙パックの回収に取り組んでいることになります。

市町村回収と集団回収の実施率



大都市での1人あたり回収量が増えました。

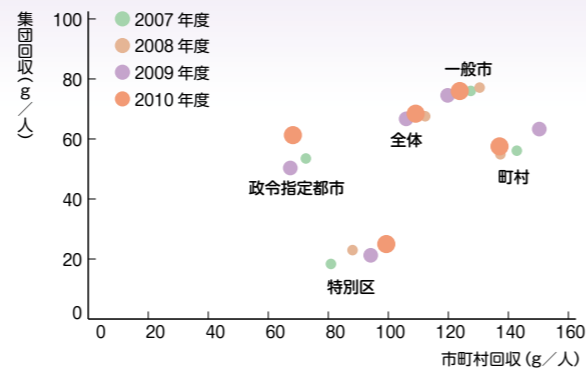
市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2010年度は市町村回収量が14.1千トン、集団回収量が8.6千トンとなりました。

1人あたりの回収量をみると、これまで回収量が少なかった政令指定都市や東京特別区で増加しました。ただ、全国人口の6割以上を占める一般市が前年度と変わらなかったため、全体としては微増にとどまっています。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	14.1	9.8	1.8	0.8	1.7
都市類型別回収推計量比率	100%	70%	12%	6%	12%
1人あたりの回収量(g/人)	111	121	68	99	139
集団回収					
推計量(千トン)	8.6	6.1	1.6	0.2	0.7
都市類型別回収推計量比率	100%	72%	18%	2%	8%
1人あたりの回収量(g/人)	67	76	62	22	59
都市類型人口(百万人)	127	81	26	9	12

市町村回収と集団回収の都市類型別原単位の推移



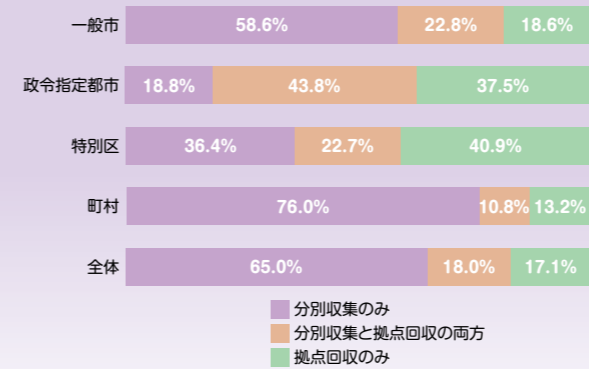
分別収集と拠点回収の両方で回収されています。

市町村の紙パック回収方式には、分別収集方式(戸別回収やステーション回収)と拠点回収があります。

紙パックを回収している市町村を都市類型別にみると、一般市と町村は半分以上が分別収集方式のみで紙パックを回収しています。政令指定都市と東京特別区は拠点回収が多くなっています。

全国で見ると、紙パックを回収している市町村の2/3が分別収集と拠点回収の両方を実施しています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

神奈川県相模原市

取り組み事例

神奈川県北西部に位置し、平成22年4月に戦後生まれの市として初めて政令指定都市になった相模原市。人口71万人の市民が1人1日あたり100gのごみの減量をめざし、「相模原ごみDE71(でない)大作戦」を展開しています。

きっかけは市が公民館で活動しているグループに働きかけ1991年9月に開始した8つの公民館での回収。当初は年間400kgの回収量が、その後14の公民館に広がり1,000kgに。1997年、容器包装リサイクル法の施行に合わせて市が週1回資源集積場所からの回収に切替え。2009年度の紙パック回収量は約119トンに達し、2010年4月から識別マーク優先で「紙パック」マークと「紙製容器包装」マークとをしっかりと分別してもらえるよう広報活動に力を入れたところ、2010年度は約192トンに大幅増加しました。

これには市職員の手作りによる分別促進ポスターでの啓発や、分別戦隊のキャラクターの着ぐるみも活用したスーパーや百貨店などにおける積極的なキャンペーンの実施も効果があったように思われます。ポスターでは「分けて出さないと回収したあと手作業で1枚ずつ分別しなければならず大変です」とキャラクターが説明しています。市民に、ひと手間かけることで資源になることや紙パックは分別して出すことがあとの作業に役立つことを伝えることで、ごみの資源化・減量化にもつながればと思います。



分別戦隊シゲンジャー銀河回収車



講習会風景(牛乳パック手開き)



学校のリサイクル状況

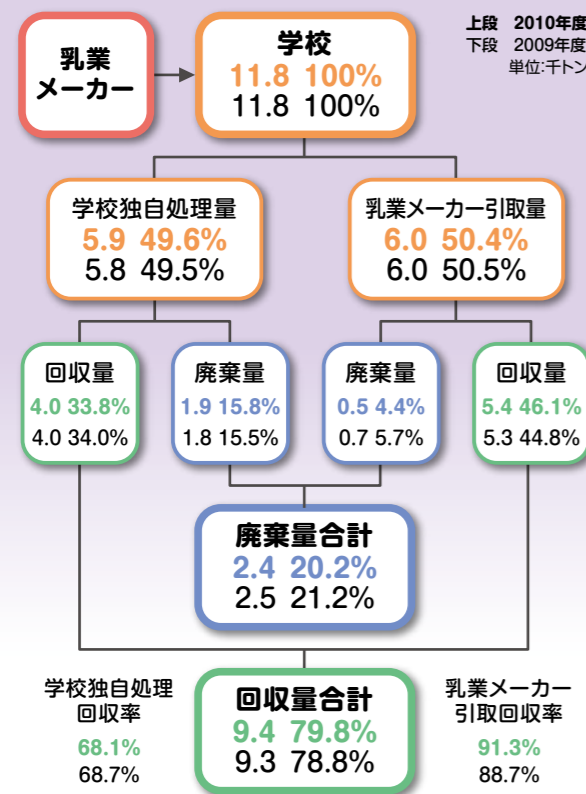
再生紙メーカーのリサイクル状況

学乳紙パックの回収率は8割を超えようとしています。

学乳紙パックの回収量と回収率は、前年度とほぼ同じでした。2010年度の学乳紙パックの総量は前年度と同じく11.8千トンで80%にあたる9.4千トンがリサイクルのために回収されました。学校が独自で処理をする量と乳業メーカーに引き渡す量はほぼ同じです。

学乳紙パックは現状でも高い回収率ですが、さらに高い回収率に向かっていきます。

学乳紙パックのマテリアルフロー(推計値)



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

吉野川市立上浦小学校

(徳島県吉野川市)

取り組み事例

徳島県北部、吉野川南岸に位置する吉野川市にある上浦小学校。設立は明治7年で歴史のある学校です。児童数は94名。学校の行動方針に環境に対する取組みが盛り込まれており、玄関には太陽光発電の発電状況モニター掲示されています。牛乳パックのリサイクル取組みも行動方針にありました。

学校給食の牛乳パックは、飲んだあと手開きしゆすぐ翌日まで乾かしたあと保健委員が2階・3階にある回収ボックスに入れます。集まったものは週1~2回納入業者が持ち帰ります。また1階にも回収ボックスがあります。こちらには家庭で出る紙パックを児童・保護者の方が持ち寄り集め、近くの福祉施設に提供しており、卒業式のときには記念として紙パックで作ったノートや手作りのしおりなどが届くそうです。

紙パックリサイクルのきっかけは、転任されてきた先生。教頭先生や児童とも相談しながらみんなでやり方を工夫してきたとのこと。紙パックリサイクルのDVDも参考に、最初はごちなかった作業もそのうちに慣れて1年生も簡単にできるようになりました。

身近なことから環境を考え地域と結びついている取組みが印象的です。



“洗って開いて乾かして”
教室前の廊下に設置された回収ボックス



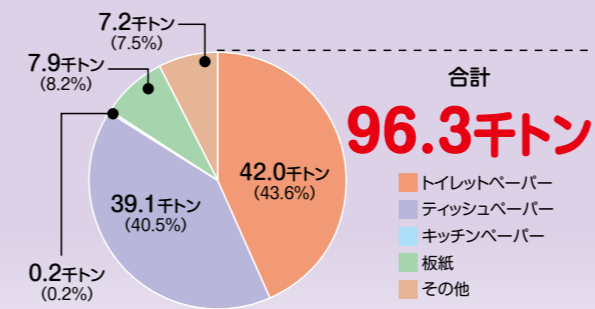
出前授業で工作した小物入れ
“上手に出来ました”

トイレトペーパーやティッシュペーパーなどに再資源化されています。

アンケートで回答を得た21社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済み紙パックを受け入れているのは15社でした。

国内で回収した紙パックと輸入した紙パック古紙をあわせた総受入量は120.3千トンになり、前年度より3.2千トン増加しました。このうち80%の96.3千トンが再生紙として資源化され、トイレトペーパーやティッシュペーパーなどの製品になっています。

リサイクル製品への利用状況



取り組んでいます! リサイクル

株式会社 日誠産業

(本社: 徳島県阿南市)

取り組み事例

四国最東端、徳島県阿南市にある株式会社日誠産業は、牛乳パックを中心とするラミネート古紙再生では西日本最大規模の処理能力を誇る再生パルプメーカーです。最終製品は製造しておらず、脱水した再生パルプの形で、紙原料や建材用途として出荷されています。

まず、納入された古紙原料がパルパーに投入され、ポリエチレンを剥離し粗分別。スクリーン工程でスクリーニングと比重分離によりポリエチレンを選別・除去します。抽出されたパルプは、パルプマシンにより脱水・板状に成型され、出荷されます。

省エネ、リサイクル化の取組みも進んでおり、スクリーン工程で除去されたポリエチレンは、自社ボイラーの燃料や固形燃料(RPF)として製造工場等で使用されています。また、ボイラーの温水はパルパー工程の熱源として再利用されるほか、近隣の温室トマト栽培の暖房用としても活用されています。



株式会社日誠産業との意見交換



脱水された再生パルプ